



廿日市市教委だより

令和元年
9月17日
第5号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



2学期が始まりました。子どもたちの元気な姿が、学校に戻ってきました。
夏季休業中には、プログレス研修をはじめ、様々な研修へ参加されたことと思います。研修で学んだことを即実践に生かしていくことは、とても大事なことです。2学期は、学校行事等もたくさん予定されており忙しい時期でもあります。様々な場面で子どもたちの成長を感じられる時期でもあります。小さな成長を見逃さず、子どもたちと一緒に喜び合えるような2学期にしていきたいと思います。



令和元年度廿日市市幼保小合同研修会

廿日市市は、今年度、広島県教育委員会より「『育ちと学びをつなぐ』幼保小連携教育の推進事業」の指定を受け、廿日市市幼保小連携協議会を立ち上げ、福祉部局と協力して組織体制を整え、幼保小連携担当教員を中心に各小学校区の幼保小連携教育の取組を推進しているところです。



横浜市立池上小学校
校長 實来 生志子

令和元年8月5日には、幼保小の先生方約80名に参加していただき、廿日市市幼保小合同研修会を開催しました。研修の前半は、幼保小連携教育の先進的な取組を行われている横浜市立池上小学校 實来 生志子（ほうらい きしこ）校長先生にお越しいただき、「幼保小の円滑な接続に向け大切にしたいこと」について講演いただきました。子ども達は、学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手であること、そして、幼児期には安心して自己発揮できるような言葉かけや環境構成が必要であり、安心感が主体的な態度を生み、自覚的な学びへとつながっていくことなど多くのことを教えていただきました。また、研修会の後半には、今年度、かえで幼稚園で幼児教育長期派遣研修に参加している廿日市小学校の伊藤尚子先生に、研修の中間報告として、「幼稚園で学んだこと、幼保小の接続のポイント」についてお話をいただきました。

《参加者の感想より》

- ・「減速しないでバトンをつなぐ ゼロからのスタートではない。」幼保小が、お互いに子どもの育ちや学びを知ることが連携の第一歩だと思った。
- ・小学校の先生に、長期にわたり園に入っただき、子どもの姿や主体的に活動するための環境構成の重要性について、改めて感じていただけることはとてもありがたいことだと思った。



生徒指導主事研修及び特別支援教育推進研修 ～8月1日（木） 交感フラザ～

今年度の「廿日市市学校教育の取組」に掲げた「特別支援教育の視点に基づいた生徒指導」を踏まえ、生徒指導主事と特別支援教育コーディネーター合同の研修を実施しました。



生徒指導主事と特別支援教育 Co.で協議

1 講義・演習「いじめ対応への『教職員研修資料』『アセス』の活用について」

- ・「教職員研修資料」をもとに作成された「いじめ問題に取り組むチェックシート」を活用し、いじめに対する組織的な対応の現状についてチェックし、**生徒指導體制の改善**を図る！
- ・アセスの「六角形グラフが小さい」「生活満足感が低い」「ある因子だけ極端に低い」場合、**フラストレーションが高いので「いじめの加害者」**になりやすい！

2 講話「特性を踏まえた支援の実践例について」

- ・ある小学校の事例をもとに、「母親を責めないで一緒に取り組む関係づくり」「公的な場で決めたことを自分のルールに反映」「頑張ることを明確に提示」「教職員皆で褒めて関わることで他者意識の育成」「焦らず段階的に目標や対応を変化」等、**アセスメント**による効果を確認！

3 報告・演習「『気になる支援につながるチェックシート』の活用について」

- ・組織的に「チェックシート」を活用することで生徒の変容や成長を導いた大野東中の実践をもとに、「**気になる状況をチェック**」「**クラスの雰囲気をチェック**」「**生徒の良さや得意なことをチェック**」して**アセスメント**し、リストから「手立てを選び」個別の指導計画を作成！

先生方の感想から…

- ・生徒指導主事と特別支援教育 Co.との**連携の大切さ**を改めて感じた。
- ・「**いじめ防止の取組が、学校教育の質を高める**」という意識を持ち、児童の様子を交流し合い、丁寧に対応したい。
- ・特別支援教育 Co.と連携を図り、**アセス等を活用しながら生徒情報を共有**する。
- ・気になる生徒について「**個別の指導計画**」を見直し、よりよい目標や手立てになるよう特別支援教育 Co.と協力してやります。

挑戦!!

学校における『働き方改革』

その取組内容の1つに、「教職員の働き方に対する意識の醸成」があります。そして、その内容の具体として「広報紙等を活用した保護者や地域への理解促進」という項目があります。

廿日市市教員会は、具体的な手立ての1つとして、この度、「広報はつがいち」で「先生の働き方改革」という特集を組みました。その中で、保護者や地域に、働き方改革の取組への理解と協力をお願いしています。

みなさんも是非、ご一読を!

⇒ 広報はつがいち 9月号

廿日市市教育委員会は、平成31年3月に「学校における働き方改革取組方針」を策定しました。



令和元年度大竹市・廿日市市中学生グローバルキャンプ

8月5日月曜日、宮島中学校を会場にして中学生のグローバルキャンプが開催されました。大竹市・廿日市市の中学生28名が、これからの**社会で活躍するためのベースとなるグローバル・マインド**や**英語による実践的なコミュニケーション能力の育成**に向け、活動を行いました。

当日は、各校の英語科の先生方やALTに加え、留学生6名も参加していただきました。フィールドワークでは、宮島に観光に来ていた旅行者の方に英語でインタビューをして、集めた情報を、英語でまとめて発表しました。

外国の方と英会話する必然性のある活動の中で力をつけていく生徒の姿を見せていただきました。



スポットライト!

~この人に注目~

◆宮内小学校で今年度から読書活動推進員をされている入江陽子さんにお話を伺いました。

一読書活動推進員をされようと思ったきっかけは?

Q友人が中学校で特別支援教育支援員をしていて、読書活動推進員というお仕事があるのを知りました。本が好きで、歴史小説やエッセイなどを読んでいました。本に携われる仕事がしたいと思い応募しました。

一1学期が終わりましたが、実際お仕事されていたかでしたか?

Q本があってそこに子どもたちが居るということは想像していましたが、1人で本の貸し出し業務をするのは



宮内小学校
読書活動推進員
入江 陽子 さん

大変でした。初めは、子どもたちのパワーに圧倒されていましたが、徐々に慣れてきて、今は子どもたちとコミュニケーションがとれるようになってきました。

一これからどのような図書室にしたいですか?

Q子どもたちが見やすく、納めやすい配置を考えたいです。それと、ビブリオバトルやブックトークなどで子どもたちが本を読み込むきっかけづくりがしたいです。1学期は、図書委員会で子どもたちが読み聞かせをしたり、多読賞を表彰したりしました!

新しい環境の中で、子どもたちと一緒に、本を楽しく読む環境づくりをしていただいています。つながりを大切にされているやさしさを感じる「人」でした。

「ギャップに注目!」アセス校内研修

夏季休業中に10校のアセス校内研修を実施しました。今年度は生徒指導主事自ら講師になって、研修を実施する学校も増え、大変頼もしく感じました。

【復習】アセス (ASSESS: 学校環境適応感尺度) とは?

自分はどれだけ学校に適していると感じているかを客観的に表す心理検査のこと。

校内研修では、アセスの結果を踏まえ、気になる児童生徒をどう支援していくかについて話し合う先生方の表情は真剣そのものでした。

つながれ! 広がれ! 「宝の山」

研修後の先生の感想より (一部抜粋)

- ・つい、子どもの困り感に目が行きがちだったが、「強み」にも着目し、取組に生かすということも大切だということがわかった。
- ・「教師サポート」の値が低いと正直落ち込むが、研修を通してその子へのアプローチの仕方を変えるきっかけにしなければと思った。
- ・気になる子について、自分だけでなく学年やかかわりのある先生方が一緒に見立てをしてくれたので、2学期もまわりと相談しながら取組を進めていきたい。
- ・この子は大丈夫と安心していた子が、実は孤独感を感じているのではないかとということがわかった。この子の強みを生かしながら友達とのかかわりをどこでつくることのできるか考えたい。

アセスは、あくまで適切なアセスメント (見立て) をするための情報の一つです。大切なのは日々の学校生活の中で、いかに子どもたちの様子を丁寧に見取るかです。今回の研修を通して学んだことを生かし、具体的な対応を考えた上で、ぜひ2学期の取組につなげてほしいと思います。

廿深!! 『学びの変革』 ④

「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて

「平成31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、夏休みに研修を実施された学校も多いのではないかと思います。

8月20日 (火)、大野西小学校・大野中学校で小中合同校内研修が行われました。



- ① 正答率の低かった問題を解く。
- ② 結果を基に2学期からの取組について各学年で協議・全体交流。
- ③ 正答率の高かった設問について1学期どのような指導を行ったのか3人の先生が紹介。

このような研修を通して・・・

- ・先生自身が問題を解いてみることで、どのようなところで子どもがつまづいているのかが分かり、具体的な手立てにつなげられる。
- ・各学年で身に付けなければならない力、必要な手立てを共有できる。
- ・課題ばかりではなく、日々の先生方の努力に目を向けることができ、モチベーションを上げることができる。

数学の先生が「小学校からの積み重ねで説明力が身に付いている。」と話されており、小学校ではどのような力を身に付けておくことが必要か、中学校では小学校での指導をどう生かすかを具体的に考えることができたのではないかと思います。

8月30日付けで通知している校内研修支援プログラム「IPPO」を活用し、各校の強み、弱みを全教職員で共有して、学習指導の改善・充実に生かしましょう!